

寝屋川高校 令和8年度 第1回学校運営協議会(全日制部会)

【日時】 令和8年7月10日(金) 15:30~17:00

【場所】 寝屋川高等学校 セミナーハウス3F

【出席者】 柴 浩司・若林 勲・森本 彰・井戸 美和・坪井 泰憲・運営委員会教職員

【次第】

1. 今年度学校運営協議委員の紹介および本校の出席者
2. 校長挨拶
3. 会長・副会長選出
4. 確認 「教員の授業とその他の教育活動に関する意見書」について
5. 報告事項

令和8年度学校経営計画では、新たに採択された経営推進事業「未来の研究者プロジェクト」を反映し、経営の柱を5項目に整理した。また、昨年度協議会での意見を踏まえ、チャレンジできる環境づくりや探究活動、地域連携の充実を進めることが報告された。

保護者アンケートでは学校満足度が向上した一方、回答率の低下が課題となった。DXハイスクール事業や令和11年度の文理探究科への改編に向け、大学・企業と連携した探究活動や「未来の研究者プロジェクト」を推進し、生徒が本物に触れる学びを充実させる方針が示された。

各学年では、1年生は学校生活への定着、2年生はリーダーシップの育成、3年生は希望進路の実現支援を重点とする。また、AIを活用した学習環境の整備、進路指導の充実、海外研修や企業・大学との連携を進めるとともに、生徒指導や防災・健康教育の充実を図ることが報告された。

6. 協議

DX「データサイエンス入門」の受講者は昨年度40名から12名へ減少したが、オーストラリア研修や研究プログラム、生徒主体のYouTube運営・校舎保存プロジェクトなどへの参加が主な要因として報告された。

また、「未来の研究者プログラム」の推進費を活用し、理科棟への最新顕微鏡42台の整備を進めることが確認された。保護者アンケートは回答率が低下しており、QRコード回答への移行やアンケートの印象が影響している可能性が指摘されたことから、PTAと連携し、実施方法や回収方法を見直すこととなった。進路指導では、生徒の意思を尊重し、希望する進路への挑戦を支援する方針を共有するとともに、「歴史と伝統」「進学実績」という本校の強みを引き続き維持することを確認した。さらに、DXや探究活動の推進に伴う教員の業務負担の増加やAI活用への対応が課題として挙げられ、業務の精査・効率化を進めるとともに、教員向けAI活用研修を実施することが報告された。

各委員から、学校が多面的に生徒を支える教育活動や、中央小学校との連携行事における生徒の主体的な姿が高く評価され、DXや探究活動を通じた人材育成への期待が示された。一方で、学校の発展に伴う教員の多忙化を懸念する意見もあり、教育の質を維持しながら業務の精査・効率化を進める必要性が共有された。また、「歴史と伝統」と「進学実績」という本校の強みを今後も大切にし、生徒が高い目標に挑戦できる教育環境を維持・発展させることが確認された。校長からは、多忙化への対応について学校全体で検討を進める考えが示され、第2回学校運営協議会の日程は後日調整のうえ連絡することとして閉会した。

7. その他

次回日程について 第2回 (授業見学日)

10月30日14:00 or 11月4日11:25 or 11月6日11:25

第3回 2月5日15:30 or 2月16日15:30